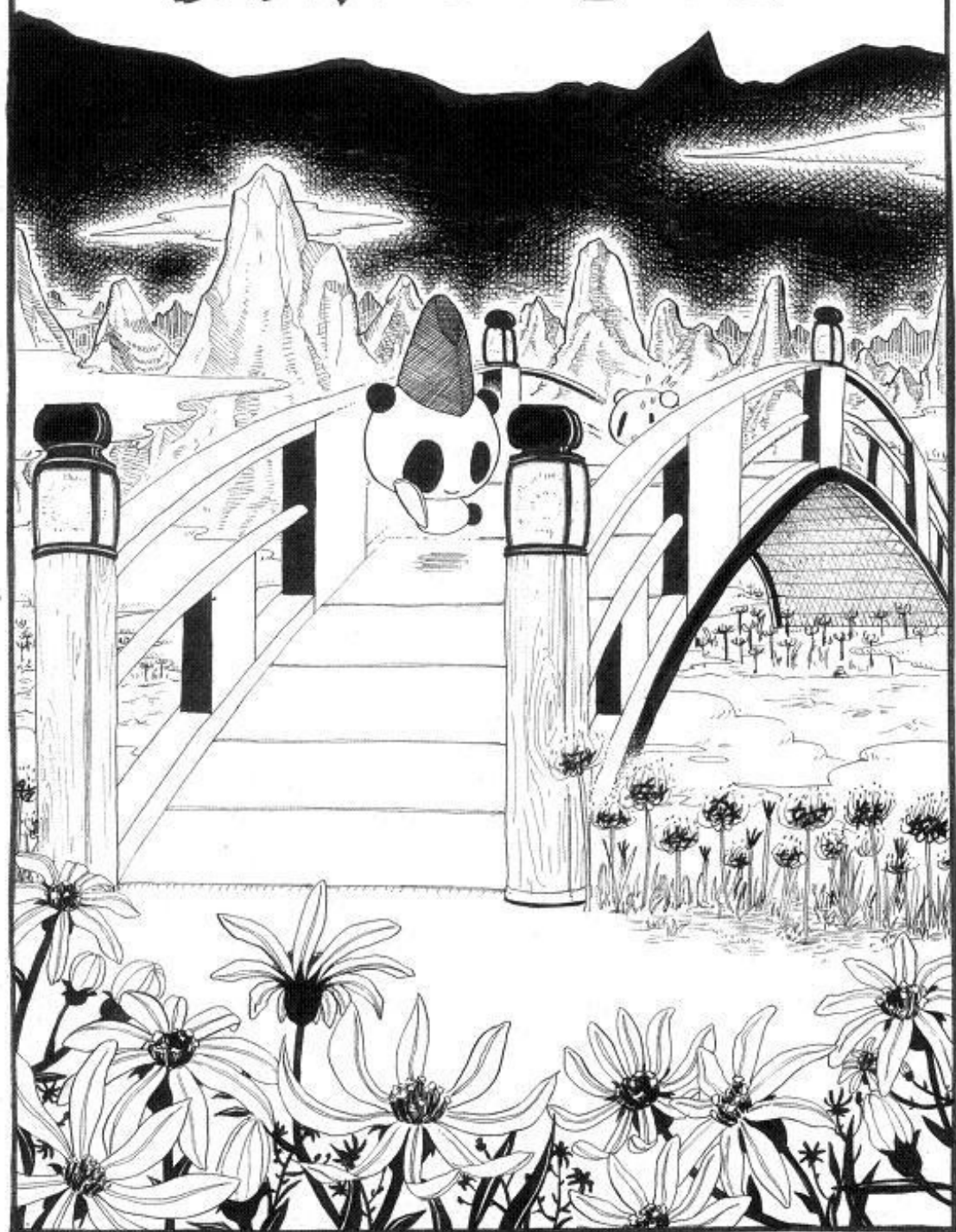
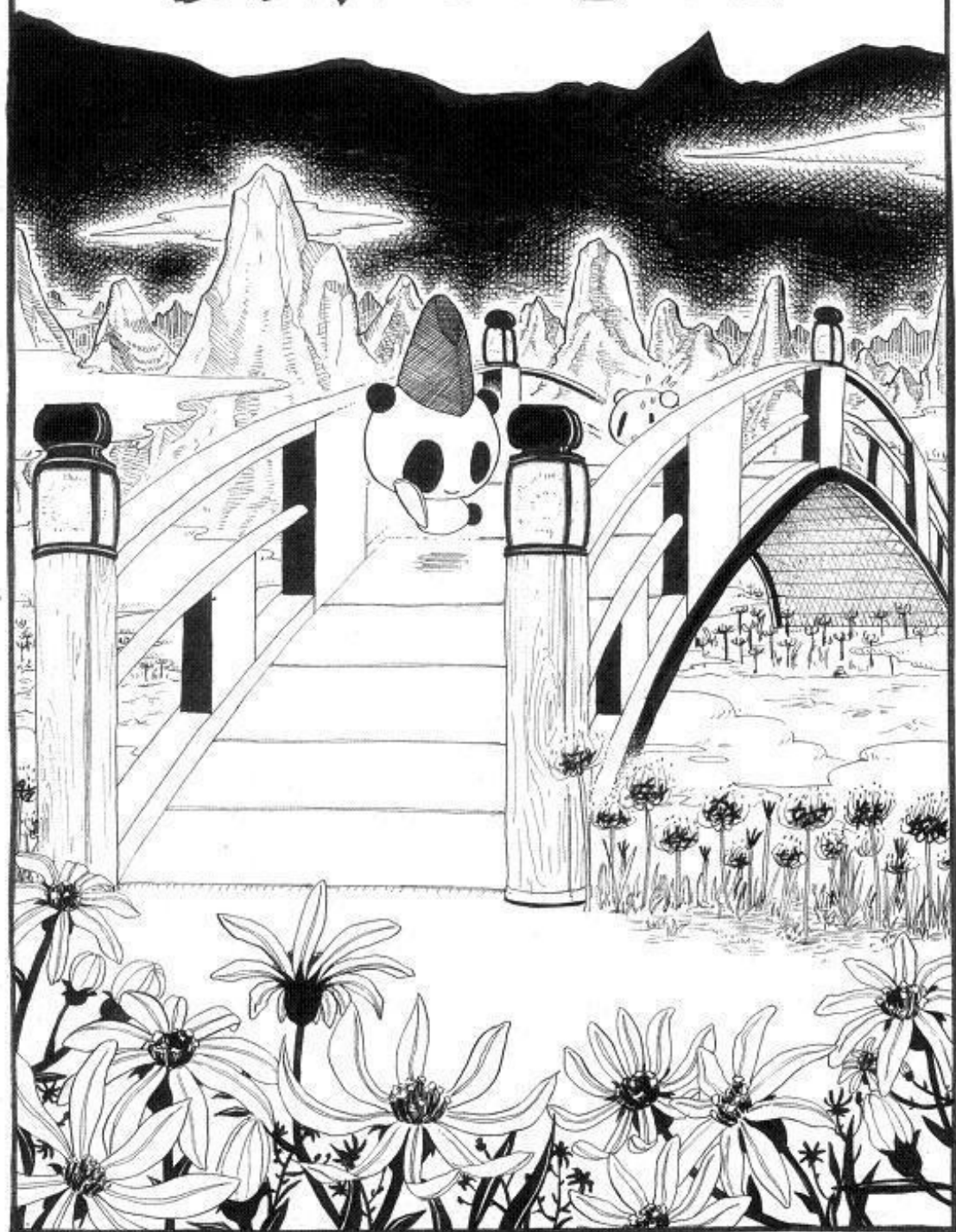


由羅物語



由羅物語





地獄の話を
少ししよう



少しばかり
悲哀のこもった
話であるかも
しれない

決して
怖い話でない

それは

とある
パンダのお話



彼の名前は
由羅

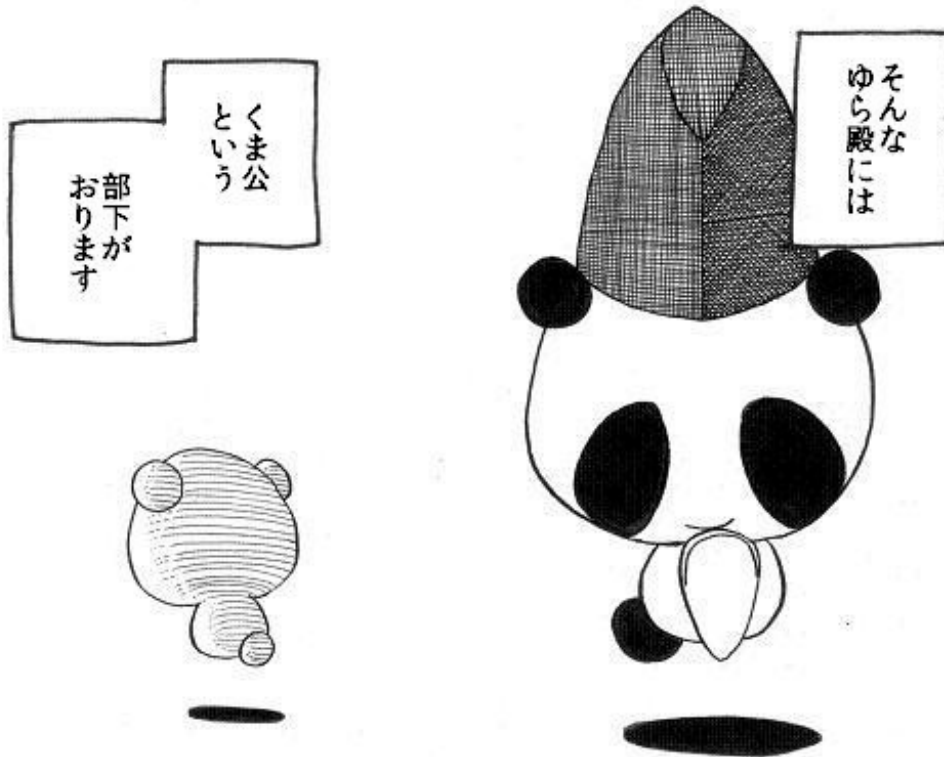
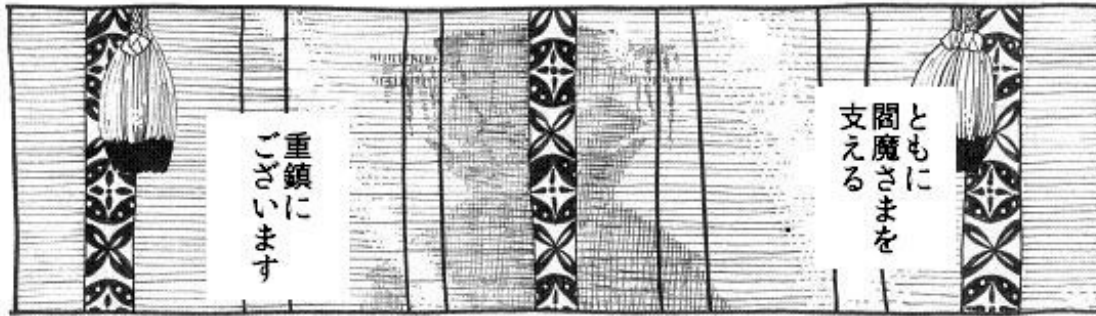
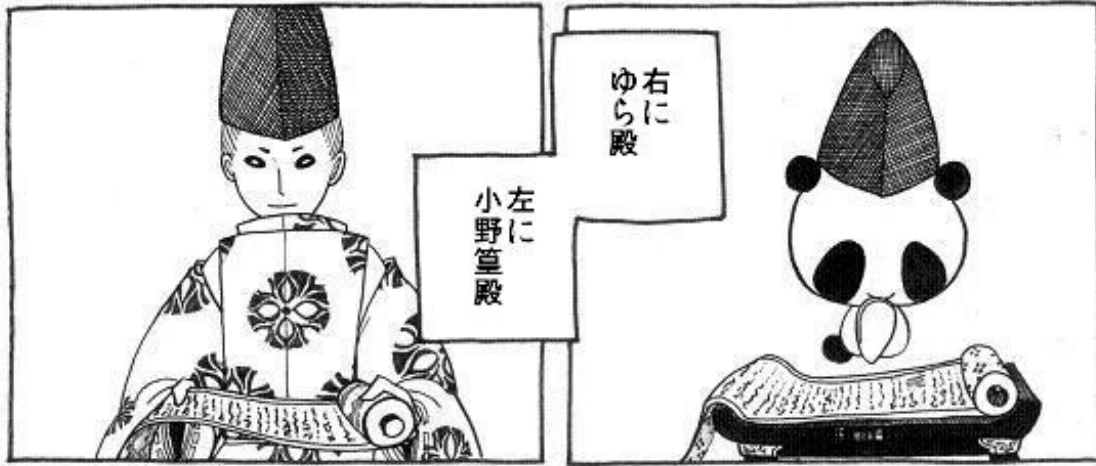
漢字は
面倒くさいので
『ゆら』と

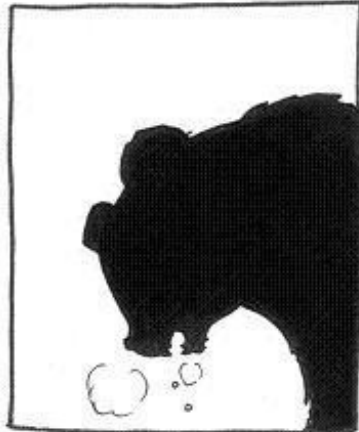
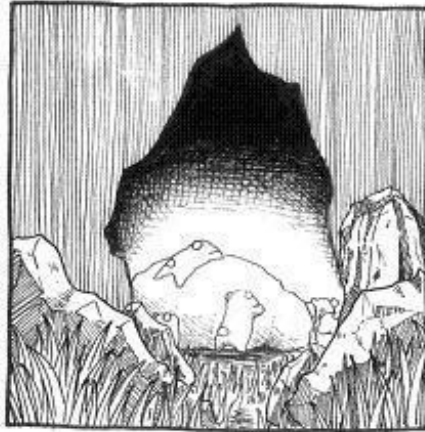
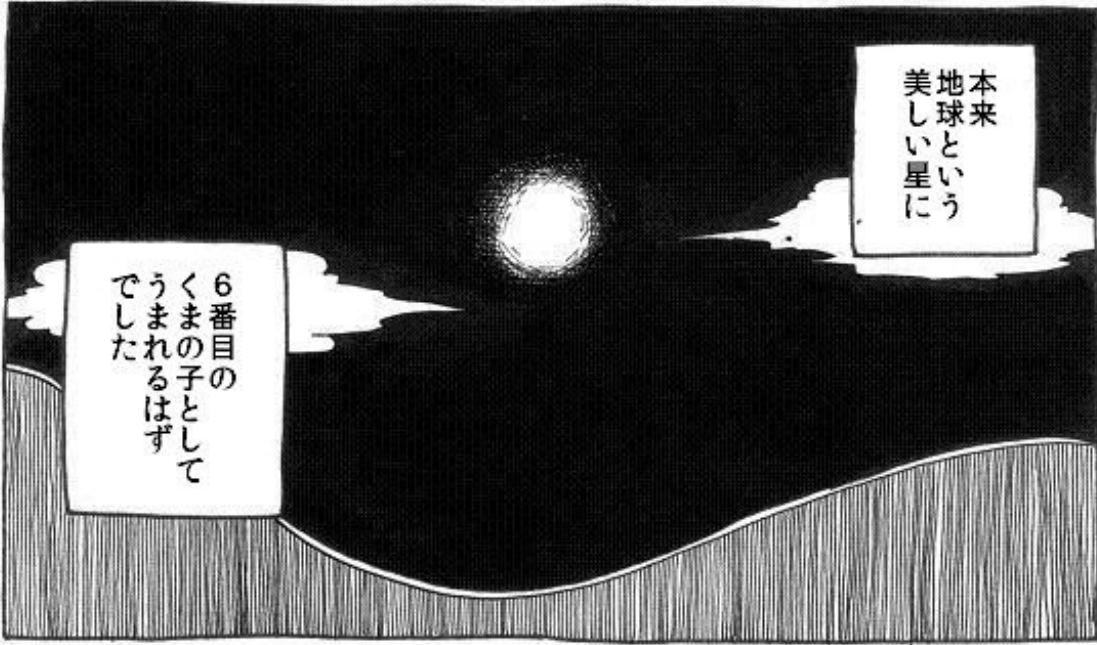
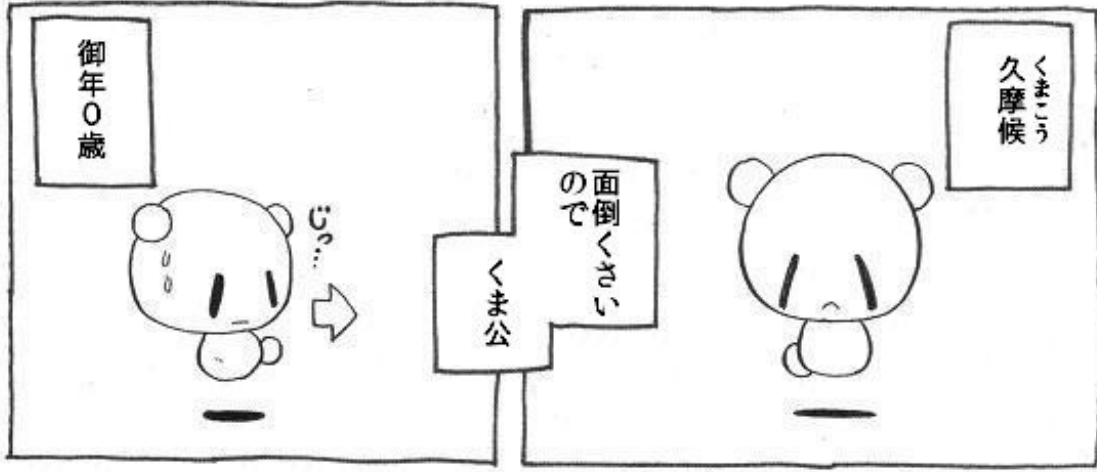


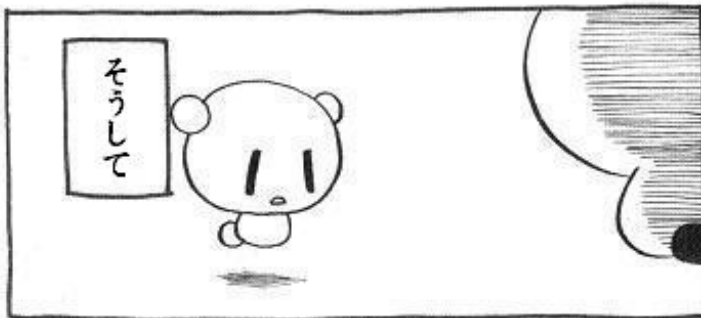
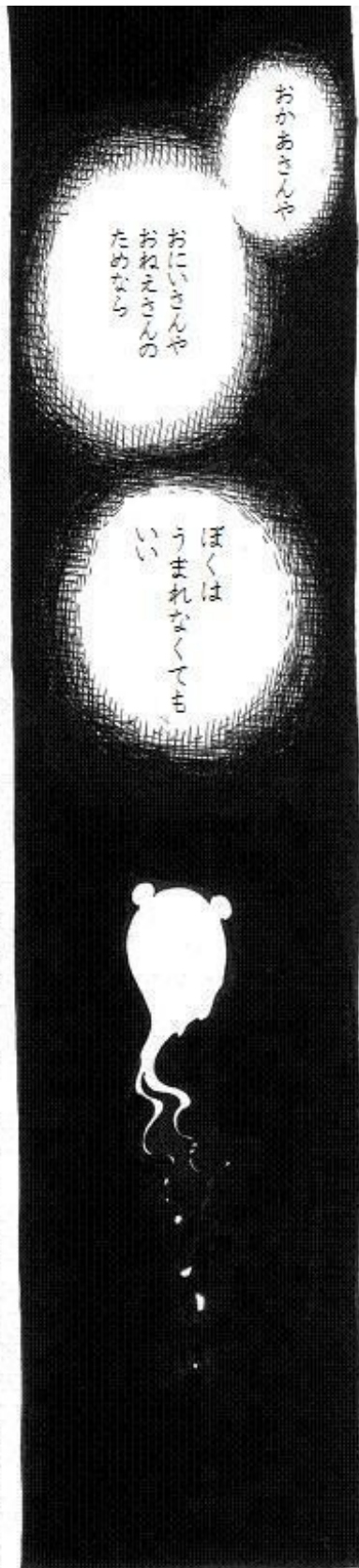
処は閻魔庁

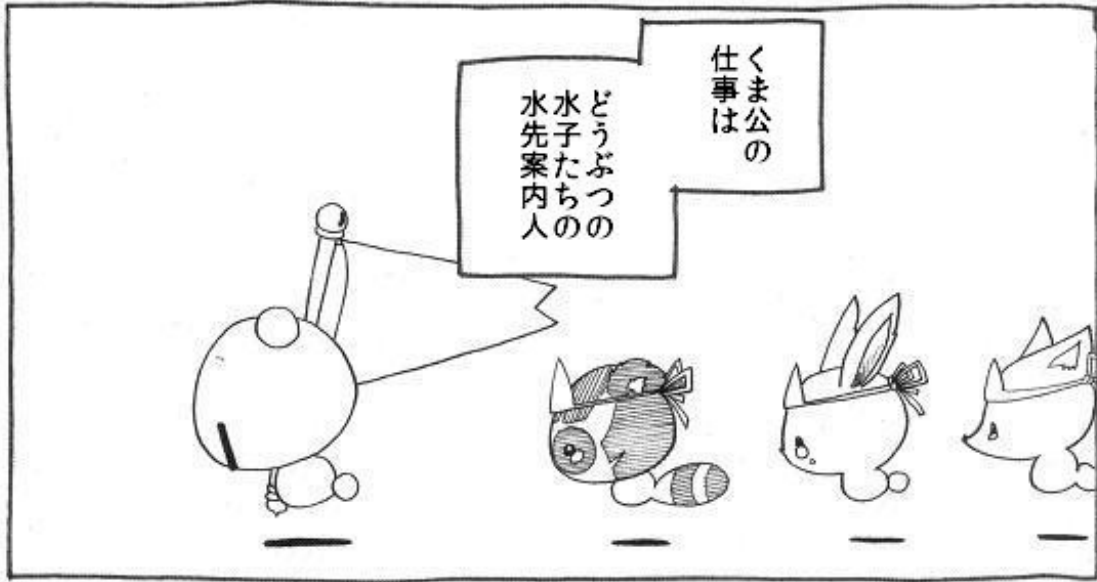
閻魔さまの
右におわします

ちよつと
偉いパンダ



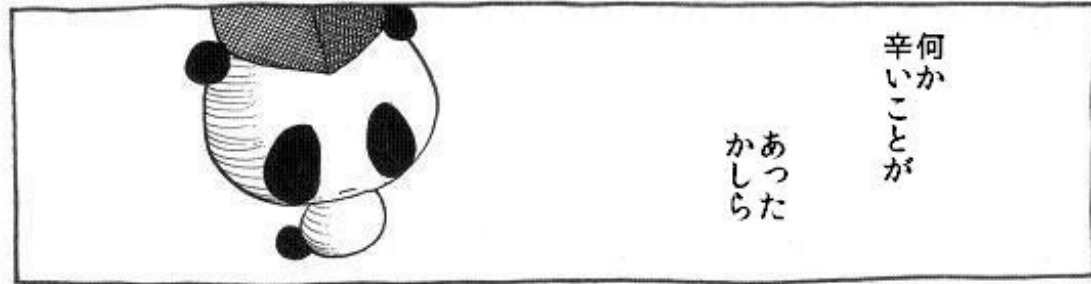
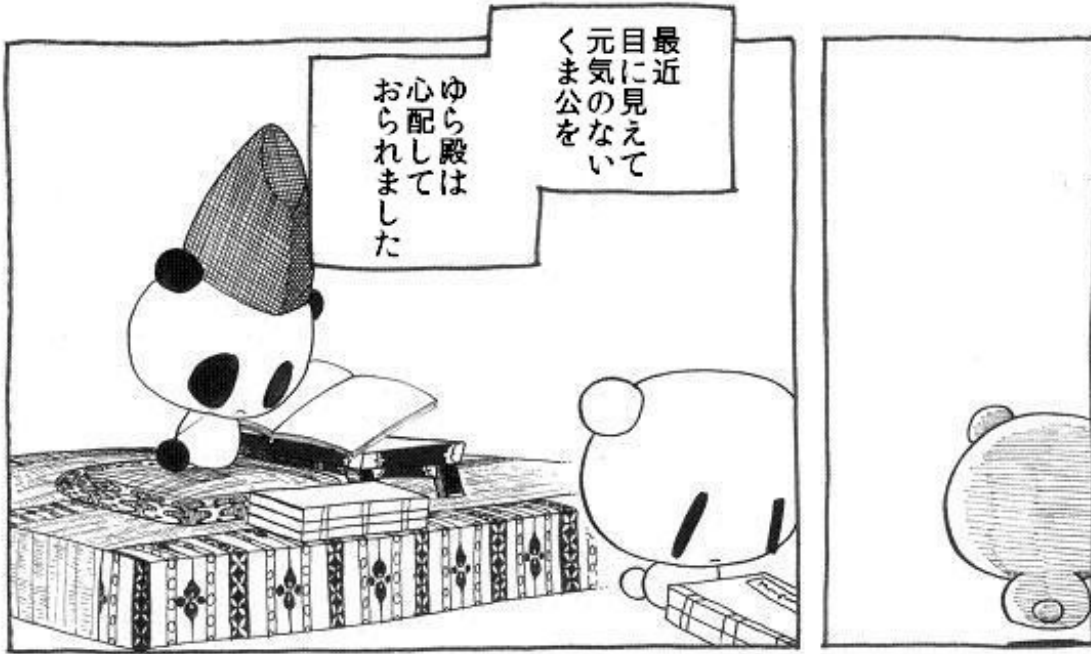


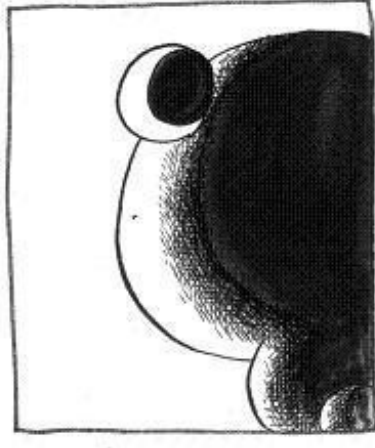
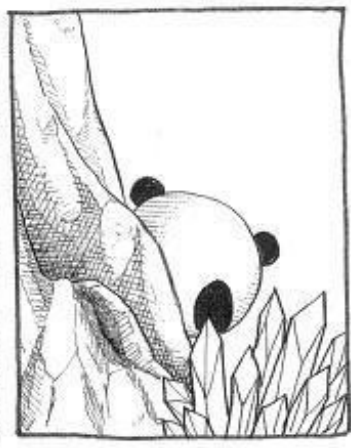
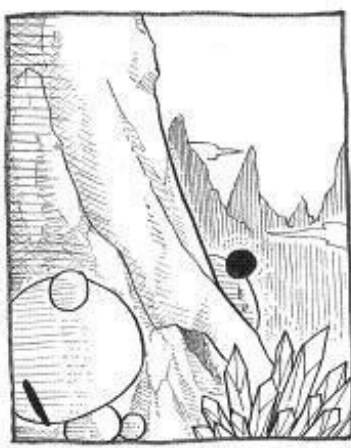
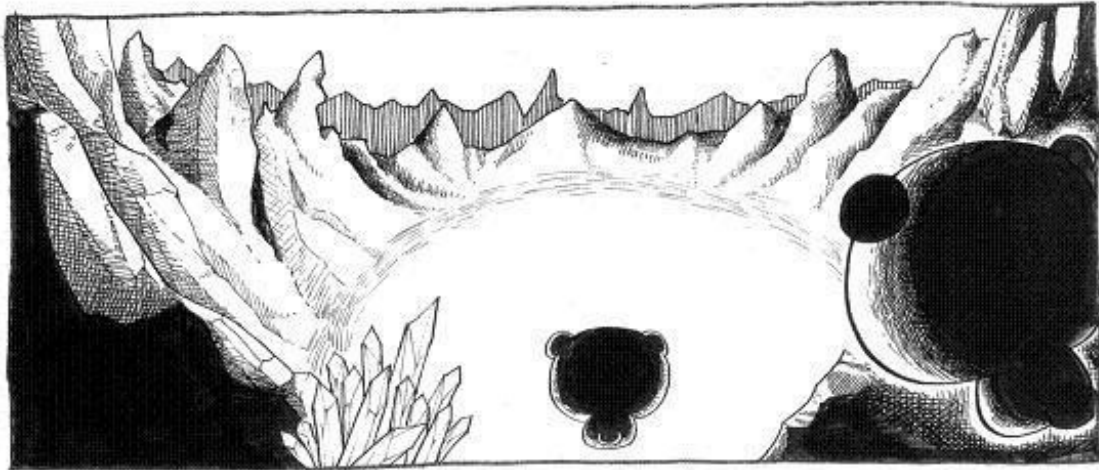




「水子」
あるいは「見ず子」
親に先立つ不孝は
重き罪とて
地獄に落つ幼き魂

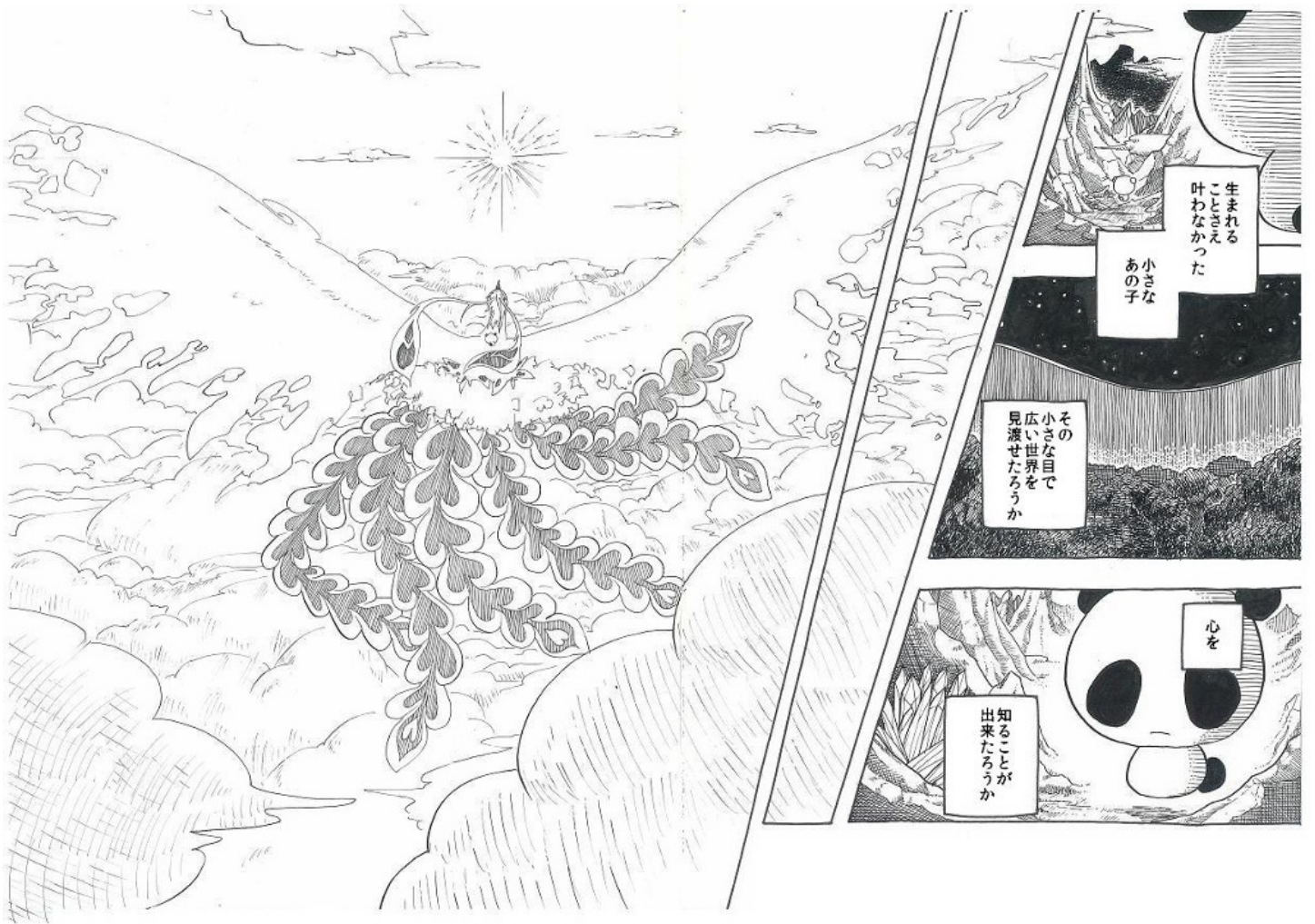






美しい地球の風景
でした

それは
水面に
映る



生まれる
ことさえ
叶わなかった

小さな
あの子

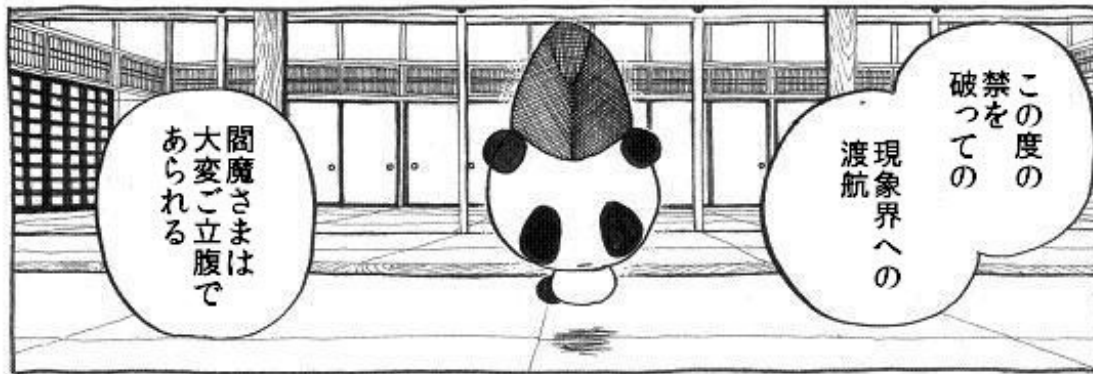
その
小さな目で
広い世界を
見渡せたら
うか

心を

知ることが
出来たら
うか

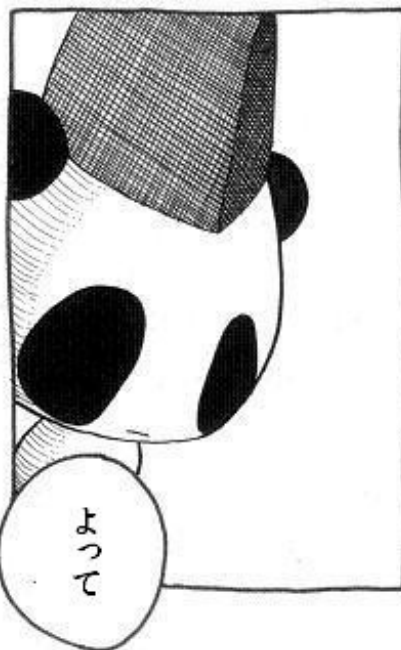


右臣官公
由羅



閻魔さまは
大変ご立腹で
あられる

この度の
禁を
破つての
現象界への
渡航



よって



甚だ遺憾との
お言葉は
肝に銘じよ

右臣官公の
自覚に欠ける
こと

殊に

17日間の
登庁禁止と

針山労役を
申しつける



怒られ
ましたね

あの…

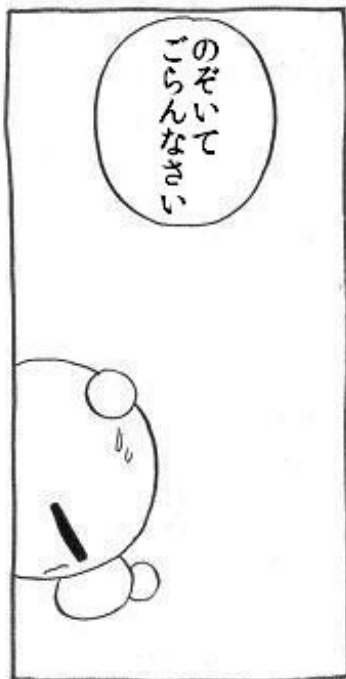
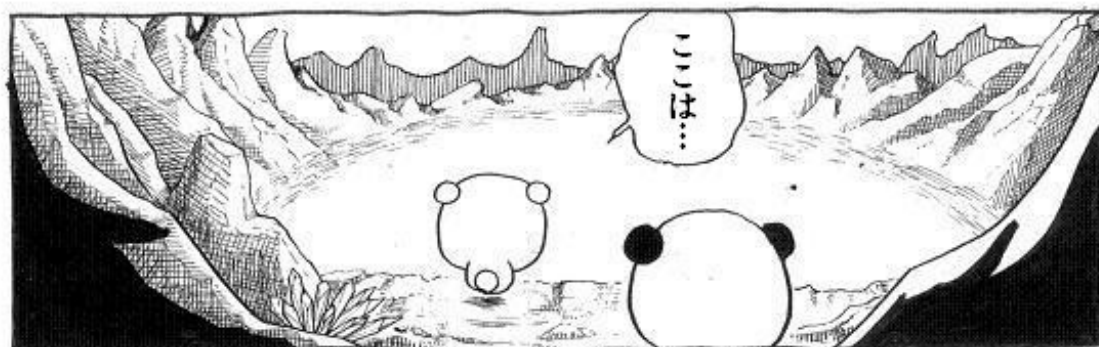
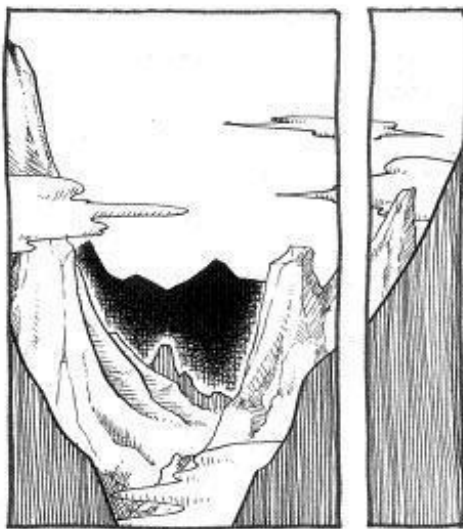
ゆらさま…

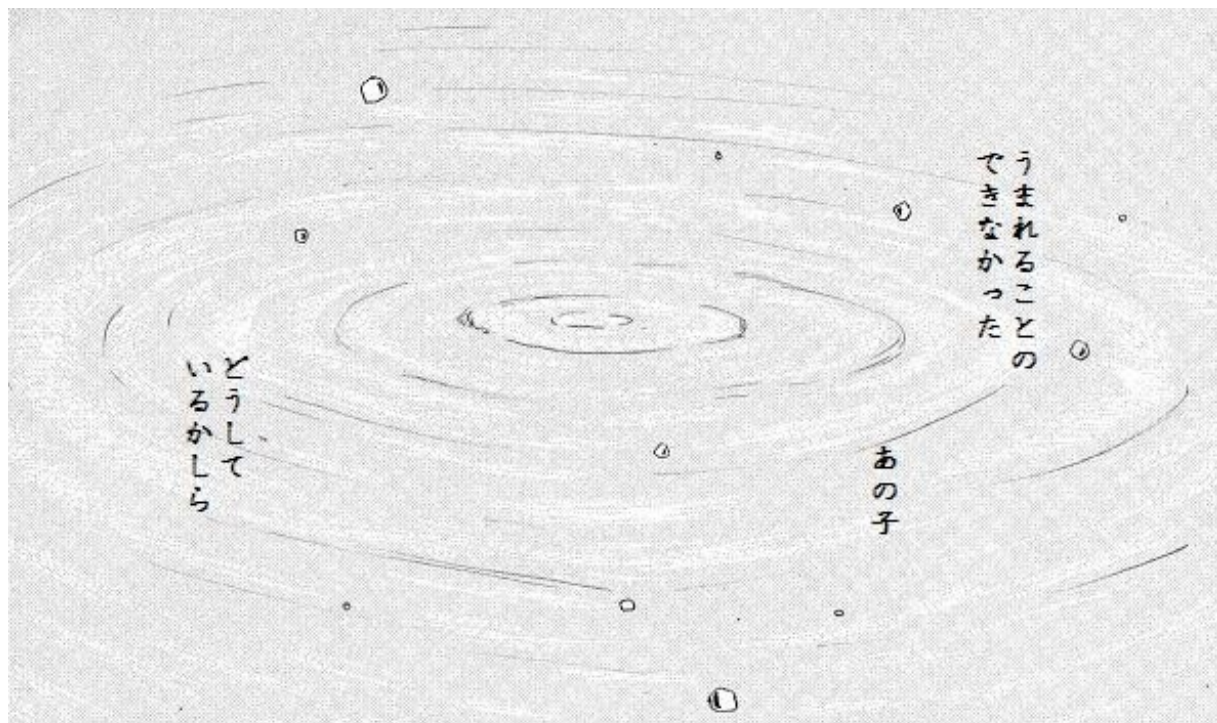
ついて
きなさい

ゆらさまが
禁を破るなんて
ことを……

な
なんで…

あんな…

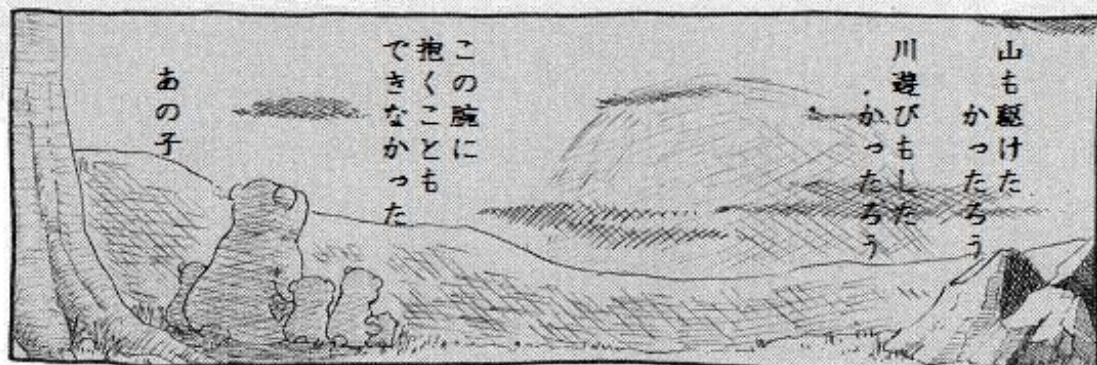




うまれることのできなかつた

あの子

どうして
いるかしら

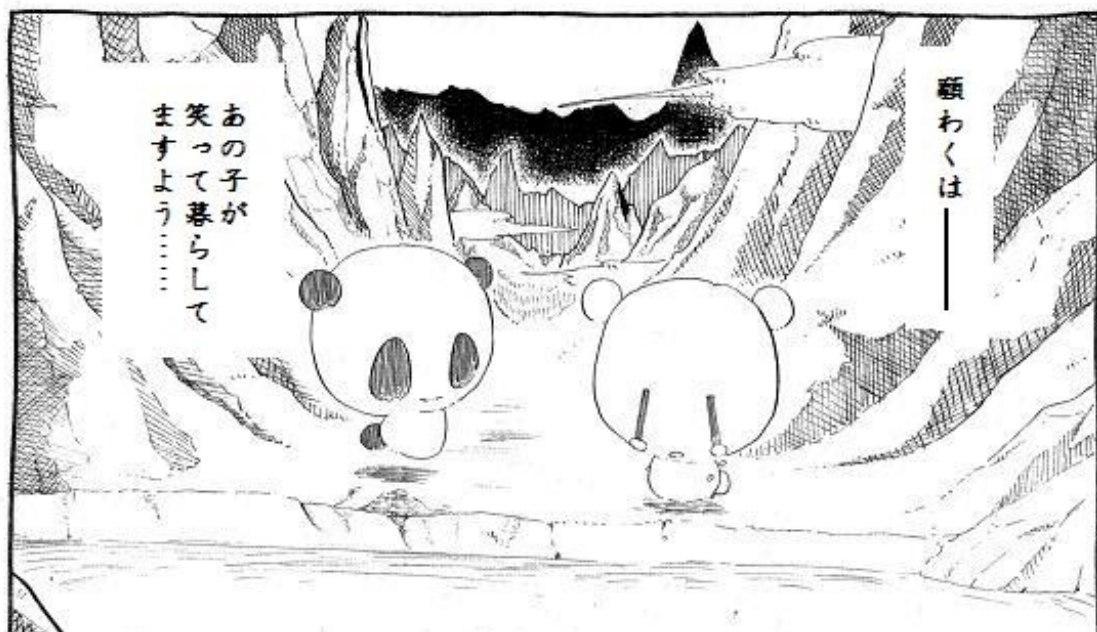


山も駆け
かけたち
う

川渡びも
したち
う

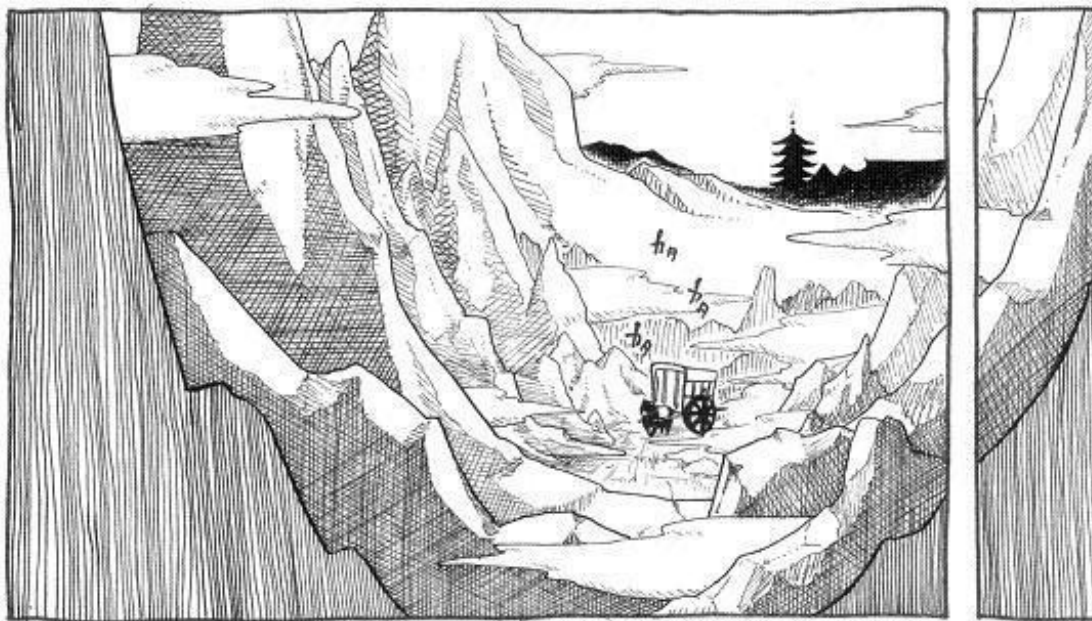
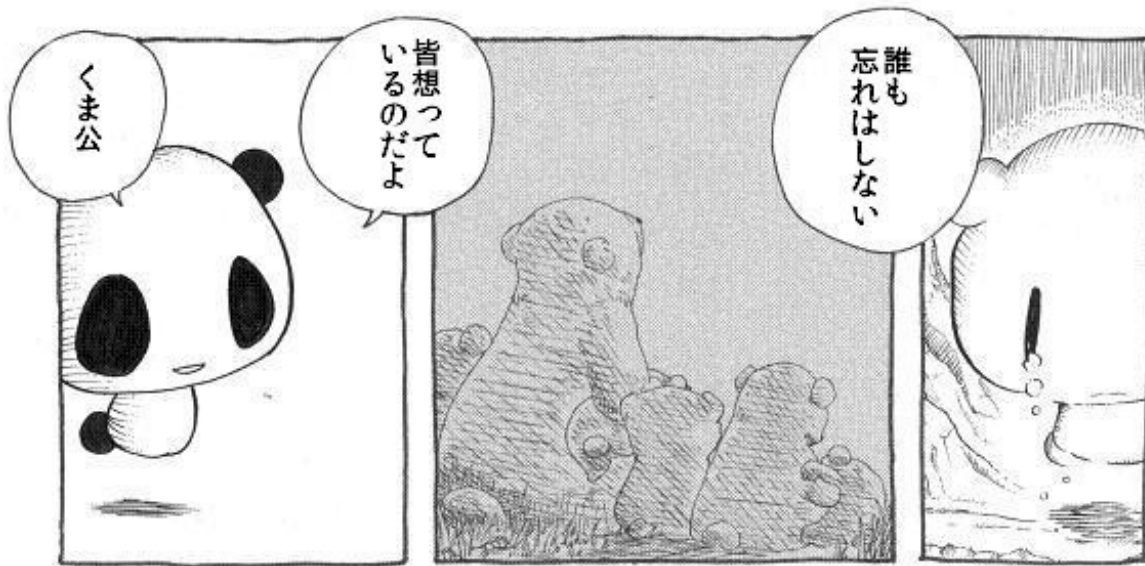
この腕に
抱くこと
もできな
かつた

あの子



願わくは

あの子が
笑って暮ら
しますよう……



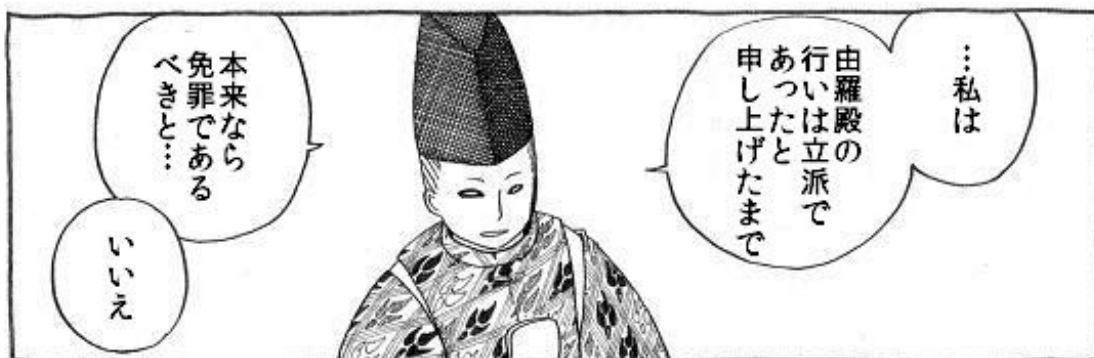




閻魔さまに
免罪を
申し上げて
くださって
しょうか？



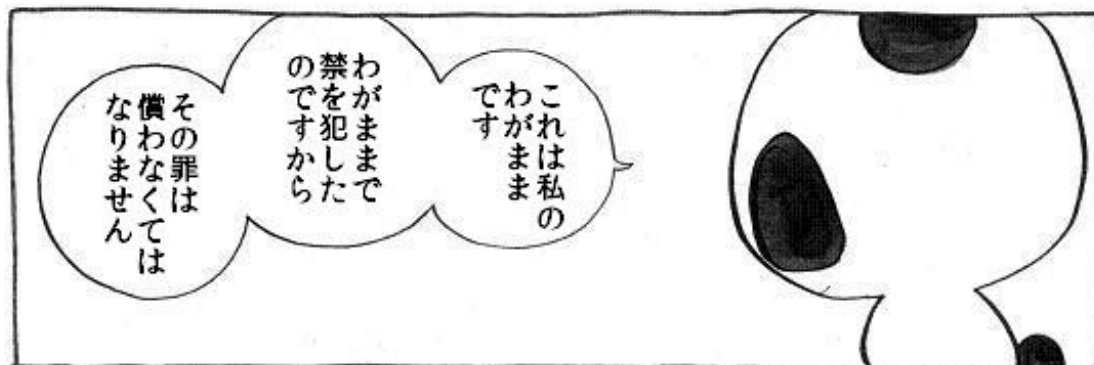
先の
ことなら
簞殿は懸けて
下さったでは
ありませんか



本来なら
免罪である
べきと…

いいえ

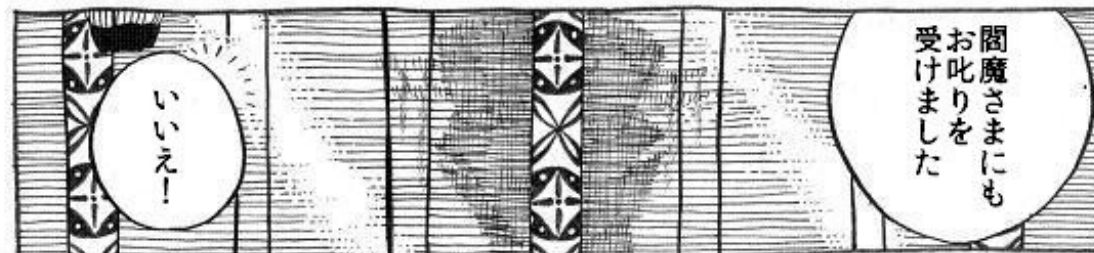
…私は
由羅殿の
行いは立派で
あつたと
申し上げたまで



これは私の
わがまま
です

わがままで
禁を犯した
のですから

その罪は
償わなくては
なりません



閻魔さまにも
お叱りを
受けました

いいえ！



貴方らしいと
笑って
おられましたよ

それでも

此処は地獄——なればこそ



ご迷惑を
おかけします

ははっ

政務が
滞ります

それに
あまり
休まると

人の心は豊かなりけり



そんな暖かな物語が
つむがれることもございます